

小学校
3年／総合

大鷹沢の竹

～検定コンテンツ作成による調べ学習のまとめ～
実践者 白石市立大鷹沢小学校 坂田理恵・平間晃

1. 学習の概要

単元名

大鷹沢の竹 (本時35 / 36)

単元の目標

身近な竹を中心に、大鷹沢地区について調べ、地域を理解し、地域の良さについて考えさせたい。さらに、調べたことを基にして検定コンテンツを作り、他地域に向けて発表する活動を通して、地域を知り、地域を愛する児童を育てる。

本時の学習

学習活動

1. これまでの調べ学習を振り返る。
2. 全員で他学年の作った検定コンテンツに電子黒板を使って挑戦する。
3. 検定コンテンツ作成方法を聞く。
4. 検定コンテンツを作成する。
5. 自分たちが作った検定コンテンツに挑戦する。

本時活用機器・コンテンツ

- ・電子黒板 (77インチ)
- ・プロジェクター
- ・コンピュータ
- ・自作検定コンテンツ作成支援ソフト
- ・表計算ソフト

補助資料等

- ・掲示用作成手順表

指導上の留意点

- 写真を見て、これまでの学習の様子を想起させる。
- 6年生が作った修学旅行検定問題に挑戦し、完成型を理解させる。
- 3年生にイメージしやすい言葉を使って、段階的に説明する。
- 作業手順をいつでも確認できるように、掲示しておく。
- 電子黒板を使って、全員で自分たちが作った検定コンテンツに挑戦し、満足感を味わわせる。



表計算ソフトにローマ字入力

2. 学習のポイント

・学習の見通しを持たせる

これまでの学習を画像を示しながら振り返らせることにより、児童は楽しかったことを思い出し、伝えたい意欲を持つ。

また、他学年が作成した検定コンテンツに挑戦することで、完成型をイメージすることができる。

・全員に方法を理解させる

クリックを「ボンと選ぶ」、セルを「部屋」などと3年生にイメージしやすい言葉に置き換えながら、電子黒板で説明する。児童が理解したか児童の反応を確かめながら、スモールステップで進める。

・自作検定コンテンツ作成支援ソフト

児童は、1問入力が終わると保存し、教師に報告する。教師は、問題文などを見ながら指導し、検定コンテンツ作成支援ソフトにコピー・ペーストして検定コンテンツを完成させる。早く入力が終わった児童には、2問目・3問目を入力させる。また、検定コンテンツに挑戦させ、合格すると賞状を印刷させる。

当ソフトは下記URLからダウンロードできる。

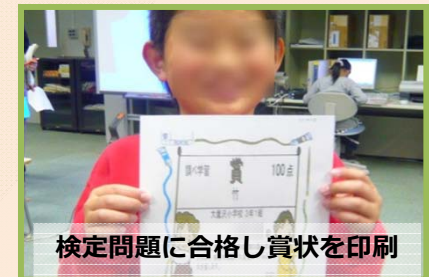
<http://www.hirama.net/wiki/wiki.cgi?page=kentei>



これまでの学習を画像で想起



表計算ソフト入力画面



検定問題に合格し賞状を印刷

3. 参観者の声

・ローマ字入力

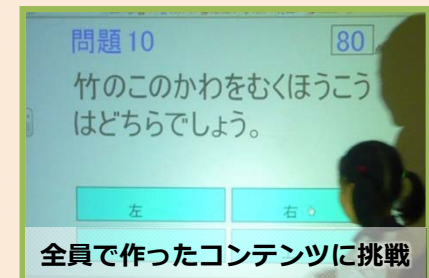
3年生がローマ字入力できることに驚いた。ローマ字入力は「必要感のあるトレーニング」が重要である。

・個人差に対応

1人1問作っただけで、学級全体で複数問題の検定コンテンツが完成することがよい。入力に慣れた児童はたくさん問題を入力したり、完成した検定コンテンツに挑戦したりしていた。

・電子黒板

全員で操作すると、一体感があり、全ての児童の意欲が高まる。



全員で作ったコンテンツに挑戦